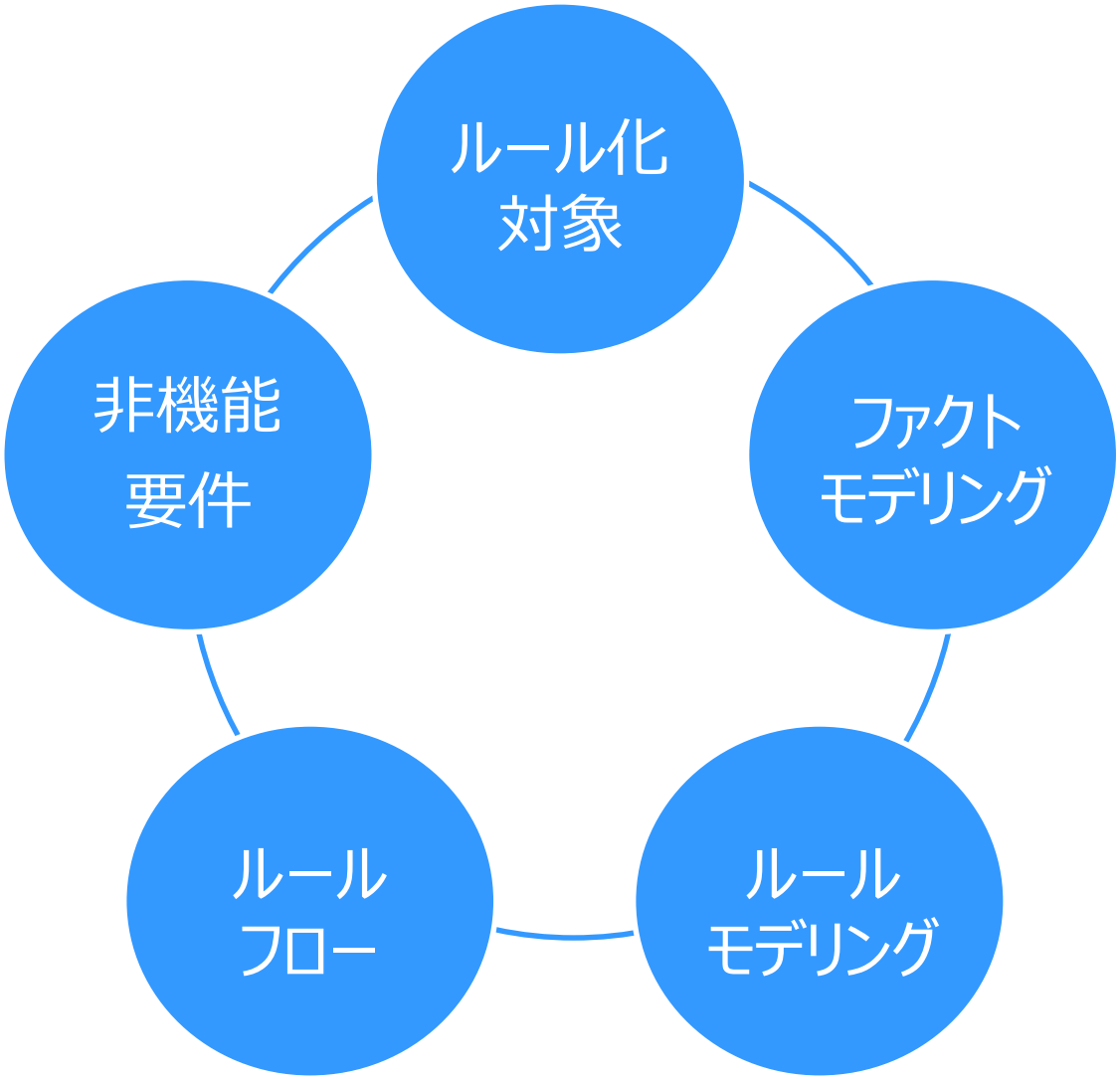
ルールベース開発を成功に導く
5つのポイント

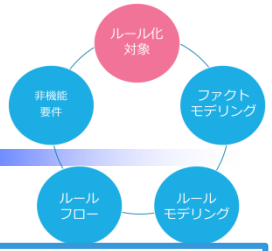
株式会社 オージス総研

ルールベース開発を成功に導く5つのポイント



Copyright(C) 2018 OGIS-RI All rights reserved.

ルールベース開発を成功に導く5つのポイント



1. ルール化対象

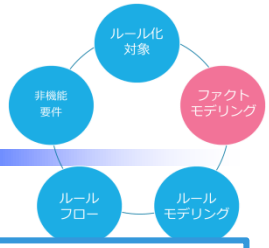
- 頻繁に変更が発生する部分
- 変更対応に迅速さが求められる部分
- 処理が複雑・煩雑で「見える化」したい部分
- ルールがいっぱいある（特に決定表で定義できるビジネスルールが多い）
- ビジネスの根幹部分

⚠CAUTION

✓ 過剰なルール化はメンテナンス性を下げる
✓ ルールベース開発が得意な業務・機能を中心に適用する
【ルールベース開発が得意なモノ】
分類・判定　制約・チェック　計算　予測(推論エンジン)

Copyright(C) 2018 OGIS-RI All rights reserved.

ルールベース開発を成功に導く5つのポイント



2. ファクトモデリング

- 業務の概念や、その概念の特性を表す属性を抽出する
  - 株の注文では、属性として銘柄や株数などがある
  - 業務フローを整理することで業務に必要な概念を洗い出す
- 業務の用語で定義する
- 抽出する概念の業務領域を意識する
  - 資産運用管理の場合、ポートフォリオ管理と資産管理では、PMとPFMの業務（関心事）が別れて別の業務用語を使っている
- ルール定義時に見直しを行いファクトを洗練する
  - 業務ルールを洗練する

CAUTION

- ✓ テーブルやファイルを単
- ✓ 同じ役割の物を異なる
- ✓ 同じ用語でも実際は異なる役割を担っていないか注意する

この資料にご興味をお持ちいただけましたら、
是非ダウンロードをお申込みください。

一度お申込みいただくと、ルールベース開発に関連した掲載資料を
すべてダウンロードいただけます。

お申込み